

まちづくり活動計画書

1 助成を受けようとするまちづくり活動について

団 体 名	ヒラサンハウス
まちづくり 活 動 名	桶狭間ひらくまちプロジェクト ～歩いて、つながる、地域づくり～
活 動 地 域	緑区桶狭間学区
活 動 の 背 景	（団体の立上げのきっかけや活動に至る背景をアピールしてください。） ・ 私たちが活動する桶狭間学区は、戦国の歴史が残る古くからの住宅地でありながら、近年は新しい住民も増え、新旧住民が混在している。古くから住む方々の間では地縁的なつながりが強い一方で、住んでから日が浅い人々にとっては、近隣にどういう方が住んでいるのかも分からないケースも見受けられる。 ・ 代表が桶狭間で14年暮らしてきて、「地域の人とつながりたいけれども、どうしてよいかわからない」「知らないから挨拶しない、挨拶しないから知らないままになる」というモヤモヤした感情を抱いてきた。 ・ 代表の次男は、小学校に通うようになって最初は地域に知らない人が多く、通学の際に不安を感じていたようだったが、たまたま知り合いの地域の方と出会ったときに、次男にその方を紹介すると、顔見知りの大人が増えたためか、ホッとした表情をみせたことがあった。「知っている人が一人増えるだけで、地域の見え方も子どもの安心感も変わるんだ」ということを改めて実感した。 ・ 「みんなで子育てができたら楽しいし、助かる」「見守りたいし、見守ってほしい」という思いから、2025年に、代表の自宅を拠点に「みんなのおうち『ヒラサンハウス』」を開設した。1年余りの運営を通じて、地域において、みんなで見守る、みんなで子育てをする、という取り組みを進めてきた。『ヒラサンハウス』で活動するメンバーとも「地域の方々と顔の見える関係でつながりたいよね」という話を日頃からしているところである。 ・ そのような中で、西区大野木学区の、市川力さんの著書「知図を描こう」で紹介されている「Feel 度 Walk」を活用した取り組みに大きな刺激を受け、ぜひ自分たちでもやってみたいと考えている。大野木学区の倉田さんとは「NPO 法人教員副業コーディネーターまちまち」などの活動で以前からつながっており、日頃から情報交換をしたり協力しあったりしている。
目 的 ・ 目 標	（活動の目的と、活動により実現したい目標及び成果を具体的かつ簡潔にご記入ください） ■ 目的 ・ 桶狭間学区において、住民同士が世代を超えて顔の見える関係でつながることができるようにすること。 ・ 子どもも大人も、地域の中で「見守りたい・見守ってほしい」という声が自然に交わされる、みんなで子育てができる地域をつくること。

	■目標 ・まち歩きと対話を通じたマップづくりを通じて、住民が自分の暮らす地域を再発見しながら、お互いを知り合う体験の場をつくる。 ・一過性のイベントで終わらせず、活動を地域に開いて参加者の輪を広げ、来年度以降も自走できる活動の土台を築く。 ■成果 ・桶狭間学区の住民の中で、これまで接点のなかった人同士で、顔の見える関係が新たに生まれる。 ・桶狭間ならではの歴史・文化といった魅力はもちろん、何気ない日常の中から新たに地域資源を再発見することで、地域内の対話・交流が生まれ、みんなで子育てできる地域の素地ができる。 ・活動への継続的な関わりを希望する住民が複数生まれ、次年度以降の活動の担い手・サポーターの芽となる。
活 動 内 容	(上記の目的、目標に沿って、活動内容や実施方法を、具体的かつ簡潔にご記入ください。) 1. まち歩き&対話イベント「Feel度Walk」の開催 (2回) ・市川力さんの著書「知図を描こう」で紹介されている「Feel度Walk」を参考に、参加者と一緒に桶狭間学区内を歩き、各々が「気になる」と感じたものを写真や絵で集める。 ・歩いた後は桶狭間公民館等を会場に対話の時間を持ち、互いの発見を共有する。1回目と2回目でルートやテーマを変え、学区内の異なる魅力に触れる。 ・子育て世代をはじめ、古くからの住民の方も住んで日の浅い方も、また町内会の役員など日ごろ地域活動の担い手として活躍されている方々にも参加を呼びかけ、住民同士の接点、特に古くから住む方々と新たに移り住んだ方々との接点を意識的につくっていく。 2. ワークショップの開催 (1回) ・「Feel度Walk」で集めた発見をみんなで共有し語り合いながら、ひとつの大きなマップを創作するワークショップを開催する。 ・ワークショップを介して自然に会話が生まれ、参加者同士の関係が深まることを意図する。 3. マップお披露目会&住民交流イベントの開催 (1回) ・完成したマップを地域内外の住民にお披露目するとともに、来場した方がいろんな立場の方と交流できるイベントを開催する。 ・子育て交流会、お譲り会、体験ブース、マルシェなど、参加者が楽しく交流し、より一層関係性を深められるよう工夫する。 ・地域の方々のブース出展も歓迎するなど、次年度以降、一緒に活動してくれそうな方を見つけていく。
活 動 予 定 間	2026 年 7 月 ～ 2027 年 2 月
助 成 金 交 付 申 請 額	50,000 円 ※1 回目 (上限 5 万円) ※2 回目、3 回目 (上限 10 万円)

2 まちづくり活動の視点

以下の視点で活動内容についてご記入ください。

審査基準① 必要性	・地域に根ざしたまちづくり活動内容か ・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か ・活動の実施にあたって、まちづくり活動助成金が必要な活動か ・活動メンバーのみの趣味や仲間づくりではなく、多くの人に理解や共感が得られる活動か
(活動の必要性について、上記観点から分かりやすくご記入下さい。) ・桶狭間学区は古くからの住民と比較的新しい住民との交流や、子育て世代と高齢世代といった世代間の交流が少ないという課題を抱えている。住民同士が顔を合わせる機会を意図的に設けることで新たな交流を生み出し、地域全体で子どもを見守ることのでき	

る、顔の見える関係がある地域づくりが必要と考えている。本活動はその実現に向けた最初の一步として、まち歩きとマップづくりという、誰でも参加できるツールを用いて、住民同士が自然に交わる機会を学区内に生み出すものである。 ・子育て世代を中心としつつ、シニア世代・古くから住む方・比較的新しい住民など、多様な立場の人々が、「歩く・描く・語る」という共通の体験を通じて自然に交わることを意図しており、特定の関心層に閉じず、多くの人に共感される活動である。また、取り組み自体の中心が「まち歩き」「交流イベント」等の地域に根ざした活動である。	
審査基準② 実現性	・活動内容が具体的になっているか ・活動内容の資金計画などは妥当か ・人員や規模などは妥当か
(活動の実現性について、上記観点から分かりやすくご記入下さい。) ・本活動は、消耗品費、印刷費、会場使用料、参加者の保険料を主な経費として見込み、本助成金(5万円)の範囲内で無理なく実施可能な予算規模としている。活動の会場についても、利用料が比較的安価な桶狭間公民館や文久山公会堂の利用が可能であり、会場費を抑制できる。 ・活動規模は、「Feel 度 Walk」を各回 10～15 名、「マップお披露目会&住民交流イベント」を来場者 50 名程度と想定しており、文久山公会堂や桶狭間公民館で対応可能な範囲である。ヒラサンハウスを通じて既に地域内の子育て世代とのつながりがあること、また学区役員等にも事前に協力を呼びかける予定であり、参加者の確保についても見通しが立っている。文久山公会堂の利用調整を通じて、学区側からも当活動に一定の理解を得られている。	
審査基準③ 発展性	・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか ・活動実施後に、地域のまちづくり活動にどのような波及効果を及ぼせるか
(活動の発展性について、上記観点から分かりやすくご記入ください。) ・本活動に参加した方々から、次年度以降も継続的に活動に関わる担い手・サポーターを生み出していく。マップお披露目会&住民交流イベントでは継続参加の意思表示を募る仕組みを設け、ゆるやかな運営チームを学区内に育てる。 ・活動を通じて住民同士の自然な会話や挨拶が増え、地域全体に「顔の見える関係」が少しずつ広がっていくことを目指す。既存の地域活動と連携することで、お互いの参加者・担い手の流入、新たな人材の発掘を促す効果も期待できる。	

3 活動にあたり他団体(町内会、自治会他)、企業、行政の部署など協力する又は調整を図る必要がある場合には、その名称と内容を記入してください。既に連絡等を取っている場合にはその日付も記入してください。

名 称	内 容
桶狭間学区連絡協議会	地域活動の担い手の方々や地域住民の方々への参加呼びかけ、運営協力依頼
NPO法人教員副業コーディネーター まちまち	まち歩きやワークショップ、交流イベントのスタッフやファシリテーターとして当団体のメンバー参画
大高竹の会	緑区における既存の地域活動との連携、交流イベントでの協力

※第2号様式は3ページ以内でご記入ください。用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

まちづくり活動の実施スケジュール

- ・活動の実施日だけでなく、それに向けた準備（団体の打合せ、広報）についても具体的に記入してください。
- ・1ページにおさまるように記入してください。

年	月	活動項目	活動内容
2026	4	打合せ	・活動内容、実施日など、団体内で検討会議
	5	申請書提出	・申請書の作成、提出
	6	助成決定後打合せ	・活動内容の確認と役割分担の決定 ・実施スケジュールの策定
	7	イベント準備	・チラシ作成と SNS 投稿の準備 ・地域の掲示板や自治会への告知依頼
	8	Feel 度 Walk （第1回）	・桶狭間神明社及び桶狭間公民館を会場にして実施（予定） ・親子連れや地域の古くからの住民など幅広く参加者を募る
	9	Feel 度 Walk （第2回）	・1回目と場所を変えて実施 ・親子連れや地域の古くからの住民など幅広く参加者を募る
	10	ワークショップ開催	・Feel 度 Walk の成果をもちより、対話をしながら大きなマップを作成するワークショップ ・幅広い年齢層の方に参加を呼びかける
	11	ワークショップ開催（予備） 交流イベント準備	・必要に応じて2回目のワークショップを開催 ・打ち合わせ、イベント内容決定・告知
	12	交流イベント開催	・作成したマップのお披露目 ・子育て交流会、お譲り会、体験ブース ・マルシェ など
2027	1	活動の報告の打合せ	・今年の活動を振り返りながら活動実績報告書の作成
	2	活動の報告の打合せ & 提出	・今年の活動を振り返りながら活動実績報告書の作成
	3		

備考 用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

まちづくり活動の予算書

1 支出

計画書の活動における支出（予算）をご記入ください。

費 目 手引きの費目を参照		活動項目	内訳・算出根拠	金 額 (円)
まちづくり活動助成金（申請金額） ※活動経費の内、助成対象となる経費が対象です。 ※上限金額：1回目は5万円、2回目、3回目は10万円				50,000
活動経費の内訳	消耗品費	各イベント	・ Feel 度 Walk、ワークショップ用消耗品 （模造紙、付箋、ペン、A4 用紙等） （茶菓子代） ・ イベント用消耗品 （事務用品）	16,000 (10,000) (6,000) 7,000
	印刷製本費	各イベント	・ Feel 度 Walk（2 回） 200 部 ・ 交流イベント（1 回） 200 部 ・ 報告書 200 部	10,000
	使用料 及び賃借料	各イベント	・ 会場代（文久山公会堂、桶狭間公民館など）	15,000
	保険料	交流イベント	・ スタッフボランティア保険等 （100 円×20 人）	2,000
支出合計				50,000

※1 ページにおさまるよう記入してください。用紙の大きさは、日本産業規格 A4 とする。

